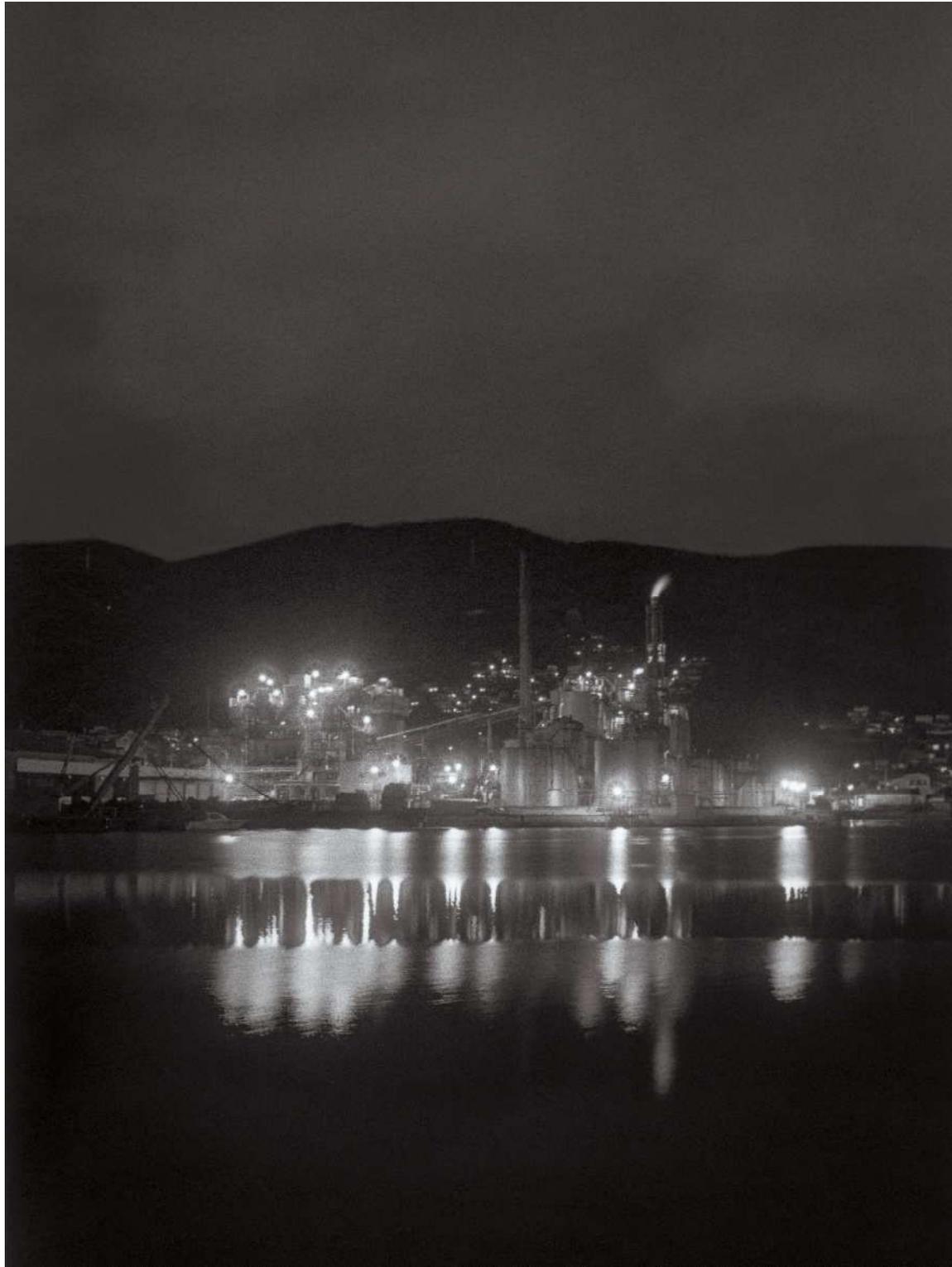


北九州 40

北九州
市





「住む」より「楽しむ」**BESS**の家

自然の木をふんだんに使った BESS (ベス) の家。

とても個性豊かな家たちです。

BESS がめざすのは、その家の先にある楽しい暮らし。

手をかけながら、毎日を愛おしむ。

家族がおおらかに笑いあう。

そんな暮らし、感じに来ませんか？

個性豊かな木の家がいろいろ。楽しい暮らしを体験できる場。

ログウェイ
LOGWAY
BESS北九州

国道三号線遠賀バイパス沿い

〒811-4331 遠賀郡遠賀町別府3713-3
TEL.093-291-1700 (代)

営業時間
10:00-18:00

定休日
水曜・木曜 (祝日は営業)

交通 | 最寄駅・JR遠賀川駅から約2km



https://skt.kyushu.bess.jp

ログウェイ
LOGWAY
BESS博多

福岡空港から車で6分

〒812-0863 福岡市博多区金の隈1-39-7
TEL.092-583-3700 (代)

予約制です。お電話またはホームページからご予約ください。

営業時間
10:00-18:00

定休日
水曜・木曜 (祝日は営業)

交通 | 最寄駅・JR南博多から約4km
西鉄博多駅から約3.5km

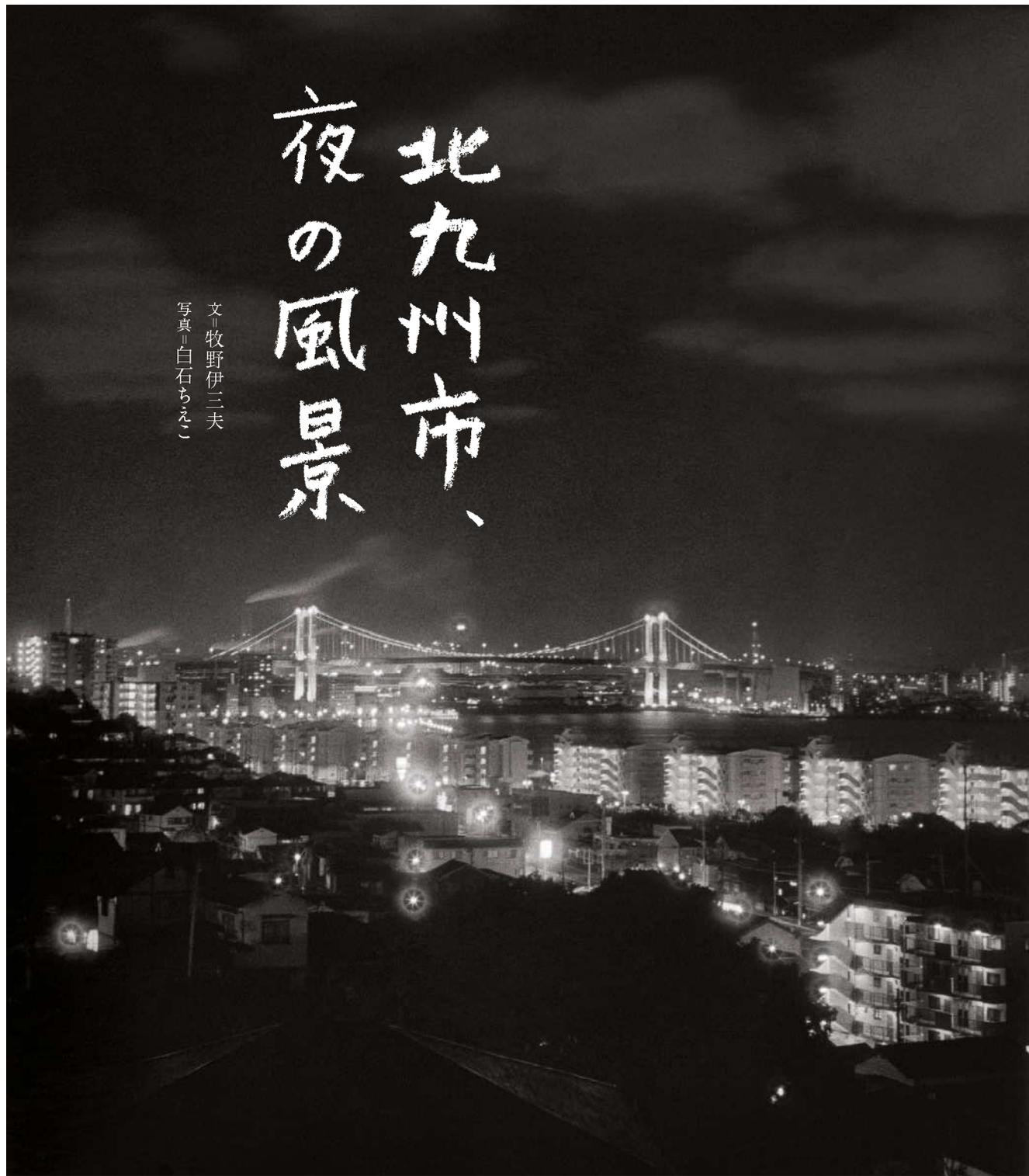


https://hkts.bess.jp



北九州市、 夜の風景

文 牧野伊三夫
写真 白石ちとせ



まあるい地球の、太陽の光があたっているところが、昼。その裏側の陰になっているところが、夜。地球は、半分を昼、もう半分を夜にして、ゆっくりと回りつづけている。暗く陰になっている夜の方は宇宙の闇にとけこみ、遠く果てしなくひろがっているようにも見える。実際に見たわけではないけれど……。もしかしたら、宇宙は、夜の方と友だちなものかもしれない。

この星に住む、僕らの暮らしはどうだろう。昼のところでは、多くの人が働いたり、学校へ通ったりして活動的にすごしている。あるいはまた、さぼって遊んでいる人なんかもある。夜の方は、眠っている人、酒を飲んで酔っ払っている人、それから、愛をたしかめ合う人たち。そして、受験勉強や仕事などで徹夜をする人などの姿もある。世界中どこへ行っても、だいたい、そんなふうに暮らしているはずだ。

最近、北九州市の夜景は日本一という評価をもらったらしい。日本一？ どうして……。

うれしいけれど、その日本一とやらをどうやって実感したらよいか、わからない。夜景というのは、ただ光の美しさを観賞するものであるのか。夜景が、滝や山の自然の景色の美しさと根本的にちがうのは、それらが人間がつくりあげたものであるということ。北九州市は街の歴史のなかで、いつしか魅力的な夜景をつくりだしていた。

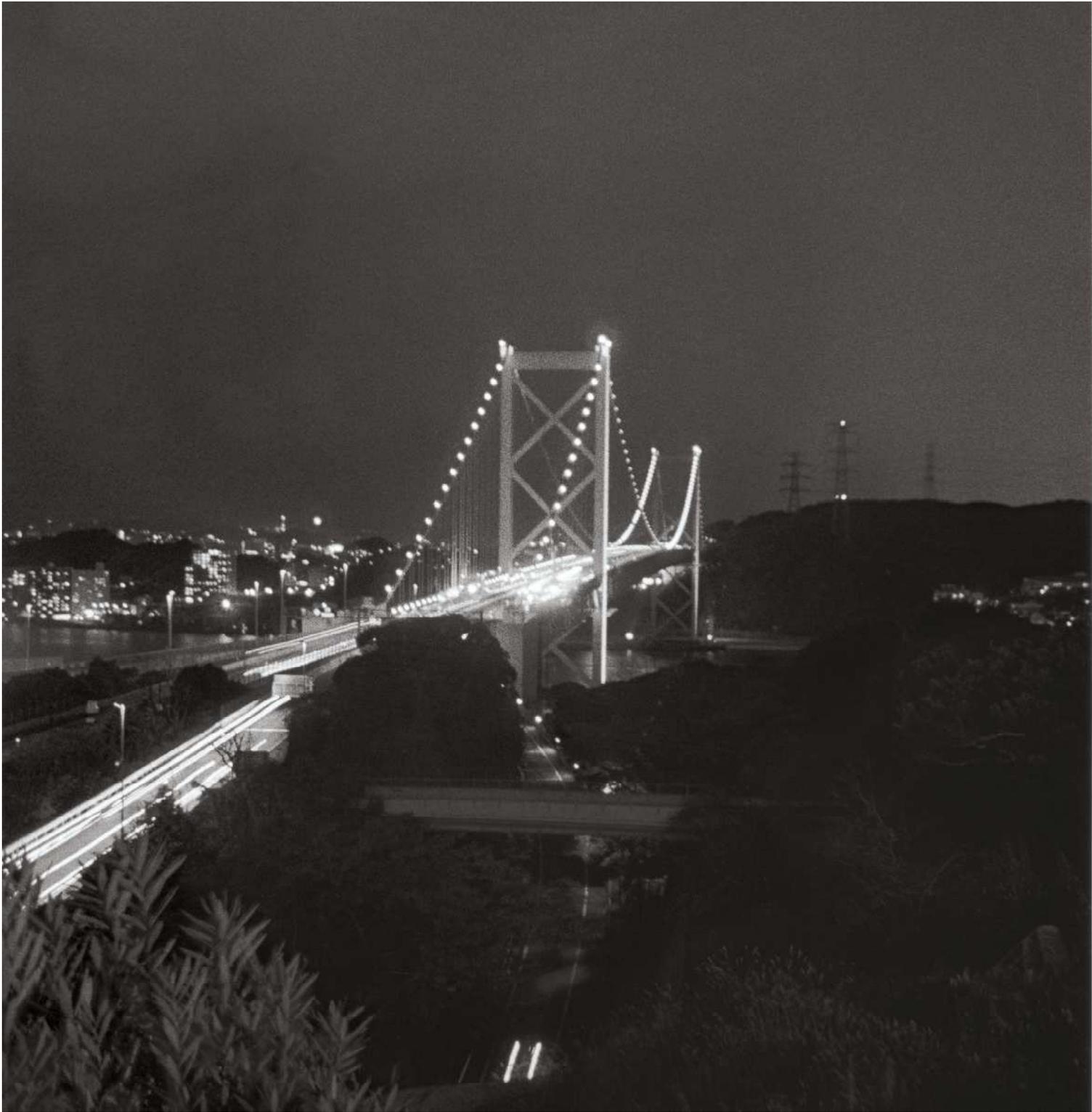
そんなことを思いながら、いつもは酒に酔って寝ているところに、フクロウになったつもりで、北九州市の夜を見物に出かけてみる。

東海カーボン株式会社 九州若松工場 (p.1)

北九州工業地帯の中心、工場が建ち並ぶ洞海湾の奥へ夜の工場を見物しに行ってみる。幹線道路から若松線の踏切を渡ると、明かりのほとんどない広い産業道路の暗がりには大きな工場の建物が連なっている。これまで、夜更けにこんな場所に来たことはない。そこをぬけて、海の見える岸壁へたどり着くと、東海カーボン株式会社九州若松工場の白い建物が、潮の引いた洞海湾のさざ波に自分の姿を映してゆらしていた。なにか、海のなかに、大魚がいるような、幻想的な風景。この大魚も、働く工場と一緒に、一晩中、こうして海面で泳いでいるのである。

和布刈公園 第二展望台

関門海峡と山々の暗い闇に挟まれて門司港の街明かりが灯っている。十二月なかば、夕方六時半には、もう真っ暗だ。山の中腹にあるこの展望台からは、次々と関門橋を渡る車の音だけが聞こえてくる。九州と本州を行ったり来たり。夜通し走るトラックもある。運転手たちはどんなことを思ってハンドルを握っているのだろう。





門司港駅の裏側

門司区役所から鉄道記念館に下っていく坂道の歩道から、門司港駅の裏側を眺めてみる。いつも車で通りすぎるばかりで、ここから景色を眺めるなど思ったこともなかった。まるでフォークの先のように駅舎から幾本も線路がひろがって外灯に照らされている。その向こうに関門橋の明かりが見える。明治の面影を残す歴史的な駅舎の裏側にこんな景色があるとは、これまで知らなかった。しばらく見入っていると、小倉方面からカタンコン、カタンコンと音をたてて列車が入線してきた。そう。高校生のころ、僕は門司高校の女の子に恋をしていて、小倉から、この列車と一緒に乗ってここまで見送りに来たんだ。そして、そのあとふられて、彼女が好きだったサザンの『栗のテーマ』を何度も口ずさんでいた。もちろん、歌いながら泣いた。古い駅舎に沁みついた、甘酸っぱい記憶。



ときわ食堂

夕方、腹ペコで帰宅する途中にこんな店の明かりがあったら、誰もが立ち寄ってみたいくなるだろう。定食、井もの、やきめし、うどんにチャンポン、豚汁……なんでもありの、どこにでもありそうな、しかし、案外ない、ありがたい店。この日のときわ食堂のおすすめは、あんかけチャンポン。ゆでたチャンポン麺に、あつあつの野菜のあんがかかった一皿。うまかったなあ。



高塔山 (10)

洞海湾にかかる赤く光っている若戸大橋、製鉄所とそのまわりの北九州工業地帯にチカチカと光る光、家々の明かり、そして、集合煙突からゆっくりとたなびく白い煙と山々の影。たしかに、工場群と海、家々が、これほど見事に混ざり合って絵になる夜景はないだろう。

「こんな美しい夜景、これまで見たことがなかったです」

同行の東京の友人が、ぼつりとつぶやいた。実は地元出身の僕も、この山からの夜景を見るのは初めてで、彼女と同じことを思った。駐車場に車を止め、次々と若い人たちが、この展望台にやってくる。そして、そのうち、なにか気持ちが高まったのか、一人の若い男が夜空に向かって「ヤッホー」と叫んだ。

工場群の明かりに、そこで夜勤をする友人を思い出す。彼は夜、奥さんの卵焼きの入った弁当を食べるのが好きなんだと言っていたなあ。

久岐の浜団地

鍵ひとつで生活する、機能的な集合住宅。そこには、規則正しく、合理的な明かりが灯り、住宅地のそれとはまったく異なる無機的な夜の景色がある。このデザインされた光の配列を淋しいと思うか、美しいと思うか。それは人それぞれであるが、そのひとつひとつの窓の明かりのなかには、様々な暮らしがある。赤ん坊の夜泣きにとまどう新婚家庭、年金暮らしの老夫婦、受験勉強の子供のいる家族、一人暮らしの人、離婚の危機を語り合う夫婦。画一的な明かりのなかに、様々な人の暮らしを想像してみる。すると、一見無表情なコンクリートの集合住宅の明かりが、どこまでも人間的に思えてくる。





北九州モノレール 企救丘^{きくかおか}総合基地

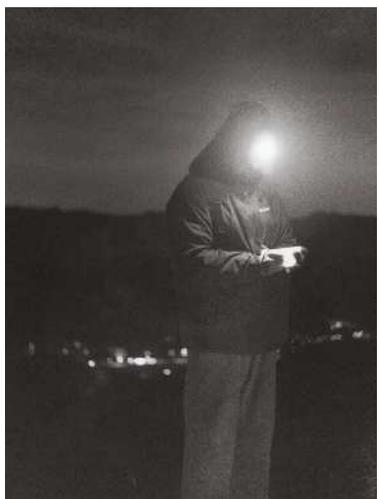
北九州モノレールの、平日と土曜日の終電時刻は小倉発二十四時。そのあと、電気が落とされ、深夜一時から、バッテリーを装備した点検部隊が線路を走る。もう市民が眠っている時刻。そして、終点駅の企救丘から小倉へ向けて、朝五時四十五分に始発が出る。モノレールたちは、その二十五分前には、点検されて出発の準備をしている。睡眠時間わずかのモノレールたちを、安全に走らせるために、夜遅くと夜明け前に働く人がいる。毎日、ご苦労様です。



みらおだい 平尾台

麓から二十九もの、つづら折りの坂道を登り、平尾台の高原へたどり着くと、野焼きしたスキの原には羊の群れにもたとえられる白い石灰岩がごろごろと横たわっている。夜になると、わずかな家の明かりと外灯が見えるだけで、暗闇のなかで風にゆられた枯れ草の音だけしか聞こえない。時折、行橋方面から山越えをする車がやってくると、ヘッドライトでスキの原を照らして走り去っていく。この高原の暗闇に浮かぶ月を見物しようと思っていたが、あいにく雲がかかって、寒空の下、二時間ばかり待っていたのだが、見る事ができなかった。

ついにあきらめて山を下りようとしたとき、林のなかに一軒の店の明かりを見つける。昨年できたばかりの「JANKANIC PEAK（ジャンカニックピーク）」というカフェ。立ち寄って、そこで薪ストーヴにあたり、あたたかい紅茶をいただいて、ソフトクリームを食べた。寒い日のソフトクリームというのは、なかなかうまいのだ。





幹線道路の食堂の明かり

平尾台からの帰り道、お腹がすいて一軒のうどん屋へ吸い込まれるように入った。夜が更けて車を走らせているときの、食堂の明かりというのは、なんともあたたかい。



日鉄ケミカル&マテリアル株式会社 九州製造所

海運会社や倉庫が建つ、暗く淋しい景色の埋め立て地に、仲間たちと車で
で行ってみる。小倉西港の中央卸売市場の近くだ。運河越しに工場の夜景
を間近で見るとめだつた。円筒型の巨大な建造物のなかは、どうなってい
るのかわからない。全身にチカチカと明かりを灯し、機械の音を響かせて
いる。もやもや蒸気を吐き出す姿は、ロボットが息をしているようにも見
える。寒空の下でポケットに手を入れて、その姿を、ただじっと眺めてい
た。これがまさに、北九州市という工業都市の鼓動なのだ。



新門司港

埠頭の広い空に、暗い雨雲がかかり、その隙間から月が顔をのぞかせていた。その下で、神戸行きの夜行フェリーが停泊して、船首の口をカバのように大きくあげ、大型トラックを次々とのみこんでいる。船員たちは、これから夜通し仕事。トラックの運転手たちは、ここでひと休み。船内の風呂に入って、一杯やるのだろう。





皿倉山 (p.24)

日暮れて、山麓駅から、スキージャンプ台と同じだという急勾配をケーブルカーで登っていく。鬱蒼とした森のなかを走ること六分。山上駅に到着すると、そこからさらにスロープカーで三分。わずか十数分で標高六二二メートルの山頂に到着する。

山頂に到着する手前から、眼下の夜景に誰もが声をあげ、そして、次々と携帯電話をとりだして撮影をはじめた。

真冬のこの日、風がふく山頂の体感温度は零度を下まわっていたにちがいないが、空気は驚くほど澄んでいた。洞海湾のまわりの星屑のような明かりが寒さを忘れてしまいそうなほどきれいだった。八幡の街を、赤い車のテールランプが数珠のように連なって、によるによると動いていくのも面白い。地上では嫌な渋滞も、ここから眺めていると別の世界の出来事のようにある。百億ドルの夜景と呼ばれているそうだが、高額すぎて、僕にはどのくらい価値なのかわからない。展望台のすぐ下は、山の暗闇で、彼方の夜景を見おろしていると、ふと、自分が鳥になったような錯覚をする。しばらく夜景に見入っていたが、さすがに寒くなり、山を下りようとしたときだった。雲間から、その景色のなかに丸い月が現れたので、わあっと、思わずまた声をあげた。

三菱ケミカル グラウンド

ナイターの明かりに、緑の芝がぼうつと夢の景色のように光り、そこで赤いユニホームの人たちがフットサルの練習をしている。夜空にかけ声が響くのを聞いて、しばらく見ていた。ところで、もう、みんな晩ごはん、食べたのかな……。



ああ、そろそろ眠たくなってきた……。
おやすみ、北九州の街。
おやすみなさい、北九州市の人たち。
また、明日。

北九州市、夜の風景

東海カーボン株式会社
九州若松工場 ▶ p.1

若松区藤ノ木3丁目
洞海湾対岸の南二島付近より

岬ノ山公園 ▶ p.2

若松区古前1丁目

和布刈公園第二展望台 ▶ p.4

門司区旧門司2丁目

門司港駅の裏側 ▶ p.6

門司区清滝1丁目 清滝高架橋付近より

ときわ食堂 ▶ p.8

小倉北区朝日ヶ丘9番

高塔山 ▶ 表紙 p.10

若松区修多羅 高塔山展望台より

久岐の浜団地 ▶ p.13

若松区久岐の浜

北九州モノレール

企救丘総合基地 ▶ p.14

小倉南区企救丘2丁目

撮影場所 索引

平尾台 ▶ p.16

小倉南区平尾台 茶ヶ床園地付近より

幹線道路の食堂の明かり ▶ p.18

小倉南区高津尾 かしうどん小倉南店

日鉄ケミカル&マテリアル株式会社

九州製造所 ▶ p.20

戸畑区中原 対岸の西港町付近より

新門司港 ▶ p.22

門司区新門司北1丁目

阪九フェリーターミナル付近

皿倉山 ▶ p.24

八幡東区尾倉 山頂展望台駅より

三菱ケミカルグラウンド ▶ p.27

八幡西区黒崎城石1丁目

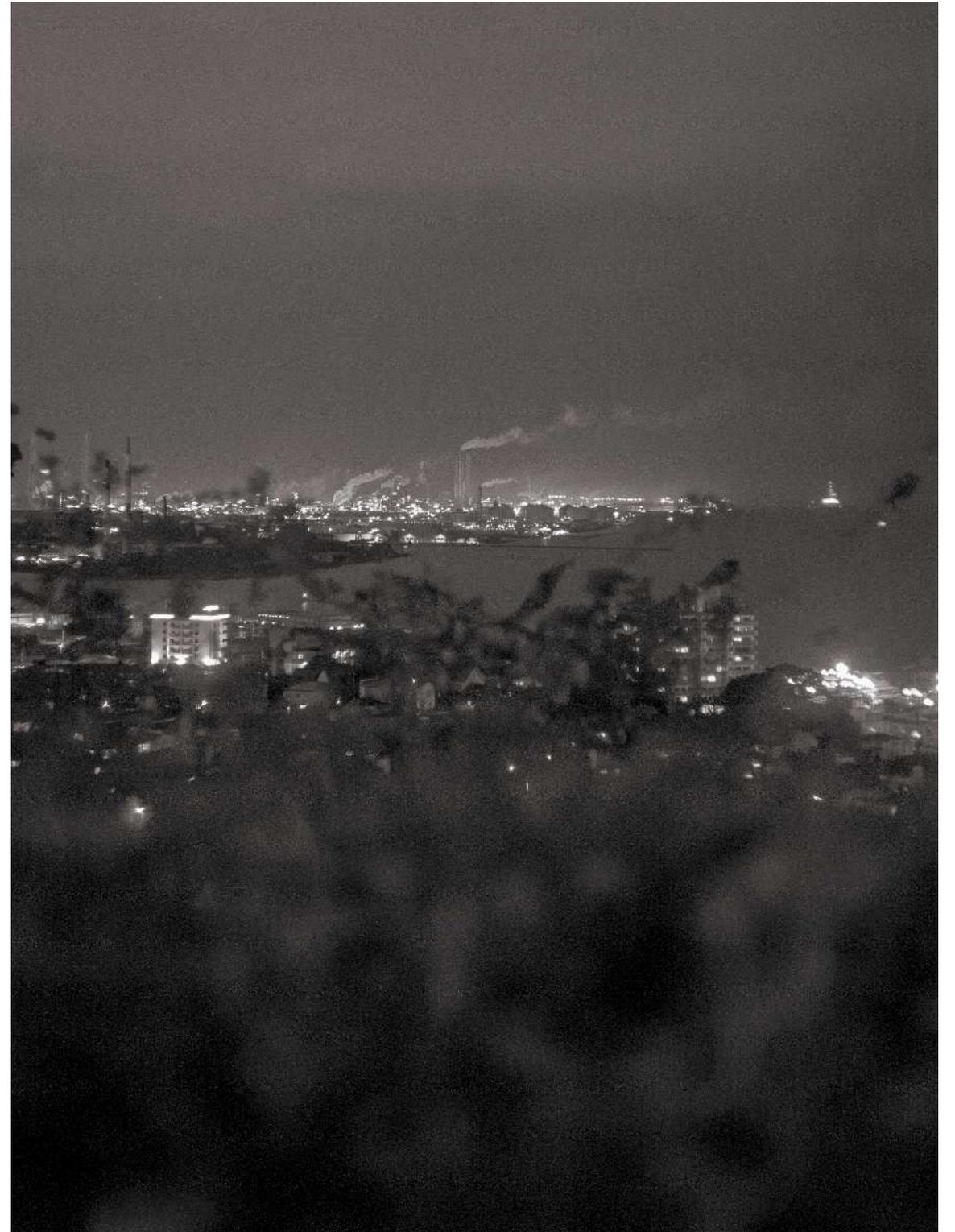
富野台北公園 ▶ p.28

小倉北区富野台2番

◎2024年12月、北九州市は3年前の前回に
続き、「日本新三大夜景都市」(一般社団法人
夜景観光コンベンション・ビューロー主催)の全国
第1位に選ばれました。

とみの だいきた 富野台北公園

小倉から門司へぬける峠の途中、住宅街にひっそりとたたずむ小さな公園。樹の茂みの向こうに、小倉の港の明かりが見え、関門海峡を大型船がランプを灯して、ゆっくりと航行している。その向こうで、戸畑の工場の集合煙突が白い煙をたなびかせている。もうずいぶん夜が更けているが、街は動いている。あのなかに、今夜、夜勤で病院に泊まる看護師の友だちがいることを思い出していた。夕方四時から朝九時まで、ほとんど寝ずに交代で休憩をとりながら、入院患者たちを気づかう仕事。働く同僚たちとの合言葉は、「朝は、かならずやってくる」。そんなこと、言っていた。





光の架け橋

下関

北九州

こちらをチェック



下関市公式観光サイト
SHIMONOSEKI

北九州市
観光情報サイト



こちらをチェック

関門地域行政連絡会議

朝日新聞西部本社 2024-2025 Winter

サンキュー
ニヤァ!



朝日新聞

九州山口発刊90周年

サンキュー
ニヤァ!



朝日新聞オリジナルキャラクター
マダニヤイ

サンキュー
SUN
キャンペーン

九州・山口の特産品が勢揃い!

総勢390名様に
プレゼント!

Wチャンスプレゼント



90周年オリジナル
Myブラックサンダー



朝日新聞

3月16日まで!

主催:朝日新聞社
お問い合わせ:朝日新聞イベント運営事務局 TEL 0120-123-396(月~金10:00~17:00)

朝日新聞サンキューキャンペーン で検索! ※写真はすべてイメージです



キャンペーンの
詳細はWebで
チェック!

Kurashi ni Ikiru Shu-ekikin

MUNICIPAL SCHOOL
TOILET&AIRCONDITIONER

WAKATO BRIDGE
FREE

WAKATO TUNNEL
FREE

KODOMO IRYOUHI

SPACE LABO
OPERATION

REVENUE

北九州市
小倉けいりん BOAT RACE 若松

小倉けいりんとボートレース若松の収益金は、北九州市民の皆さまの暮らしに役立っています

青雲／白雲

＊『雲のうえ』39号のカラフルな絵が
明るい気持ちになる表紙がすごく良
いです。鹿児島から帰省中の娘に読ん
で欲しくて手渡しました。娘は5歳の
女兒を子育て中です。「市立子育てふ
れあい交流プラザ「元気のもり」で遊
びまくりました。有益な情報があり
がとうございました。『ばあば』の株が
上がりました。(八幡東区・65歳女性)
＊長年、北九州で暮らしていますが、
移住者の方々の様子を見て、こんな
にも良い街なんだとあらためて気づ
かされました。坂の上の家から外国
船が通る海が見えたり、「空が生きて
いる」と感動したり。親は働きや
すく、子どもは最高の遊び場がある
ことを知って、ハッピーな気持
ちになりました。(門司区・56歳女性)
＊北九州で暮らしている家族のみな
さんの活き活きとして楽しそうな情
景が浮かんできました。私は九州を
訪れたことがないのですが、ぜひ行っ
てみたいと思いました。調べてみる
びつくりしました。

＊(神奈川県平塚市・20歳女性)
＊少子化対策で「子ども・子育て政
策」を見聞きすることが増えました
が、北九州市は国に先駆けて色々な
ことをやっていること、なかでも移住
支援には驚きました。39号の記事の
中で「一番心に残ったのは「私たちほっ
とさん」です。私と同じ世代の提供
会員さんがイキイキと活動されてい
るのを知って、とても興味をもちま
した。(八幡西区・64歳女性)
＊私は時折、小さな船旅をしています。
北九州には若松と戸畑、小倉と
藍島、門司と唐戸といった航路、渡
船があります。数分から30分から
ない小さな船旅で、大海原を航海し
ているような気分になっています。
潮風の香り、眼前に広がる景色、ひ
とときの安らぎ……。小さな船旅が
できる北九州は素敵です。

＊(福岡県遠賀郡・64歳男性)
＊1号からいつも楽しく読んでいま
す。39冊すべては揃っていないけれ
ど、時々読み返しています。39号はと
ても良かったのでペンを取りました。
私の息子が関東で仕事をして結婚
最近孫が生まれました。いつか息子
が生まれ育ったこの地に帰ってきて
ほしいと考えています。若い子育て世
代の方たちの記事はとても参考にな
りました。今後は北九州市が抱える
問題点なども特集していただけたら
「飾らない街・北九州市」だからこそ、
期待します。(八幡西区・58歳女性)
＊妻から勧められて読ませていただ
きました。出張が多く、家族と過ご
す時間が少ないですが、掲載されて
いた子育て情報を参考に休日には家族
揃って出かけたいと思います。何気
なく過ごす家族の時間、一日を過
ごすことの大切さを改めて感じまし
た。(門司区・40歳男性)
＊2014年から2019年、東京
に単身赴任し、その間、北九州との
往復は北九州空港発着のスターフラ
イヤイヤーを利用していました。機内で
『雲のうえ』を読むのはいつも楽し
みで、短い帰省中の家族との会話に重
宝し、食の情報は県外からの来訪者
にも役立ちました。これ
からも未永く楽しませていただきた
いです。(八幡西区・62歳男性)
＊子どもが泥んこで遊んで空が広く、
地域の人が優しいなんて最高ではな
いか、と北九州に対する興味が正直
0から20くらいに上がりました。
(東京都豊島区・24歳女性)

＊読者プレゼント

はがきをお寄せくださった方な
かから、抽選で36名の方にプレ
ゼントをお贈りします。当選発表は
発送をもって代えさせていただきます。
お1人様1号につき1通まで。
2025年7月25日消印有効。

A：阪九フェリー 新門司⇄神戸
六甲アイランドまたは大阪泉大津
スタンダード洋室・往復ペア乗船引
換券⇒1組



B：関門汽船 北九州夜景観光定
期クルーズ ペアチケット⇒5名様



C：皿倉山ケーブルカー・スロープ
カー往復通し券⇒10名様



D：足立山妙見宮「巳」絵馬(牧野
伊三夫 画)⇒20名様



『雲のうえ』40号

- ◎表紙の写真＝白石ちえこ
- ◎表紙の題字＝牧野伊三夫
- ◎アートディレクション＝有山達也
- ◎編集＝高橋亜弥子
- ◎校正＝齋藤 晋
- ◎制作＝『雲のうえ』編集委員
牧野伊三夫、有山達也
- ◎発行＝北九州市にぎわいづくり懇話会
- ◎問い合わせ＝北九州市都市ブランド創造局
MICE・エンターテインメント課
電話 093-551-8152
- ◎制作・印刷＝株式会社ゼンリンプリントクス
- ◎協力＝北九州市のみなさま

©北九州市2025 本誌記事・写真・
イラストレーションの無断転載を禁じます。

＊北九州市にぎわいづくり懇話会では、『雲の
うえ』への広告掲載企業を募集しております。
⇒北九州市都市ブランド創造局 MICE・エン
ターテインメント課『雲のうえ』送付係まで

北九州市民憲章

緑を豊かに
清潔で美しいまちにしまし
きまりを守り
安全なまちにします
人を大切に
ふれあいの輪をひろげます
元気で働き
明るい家庭をつくりま
学ぶ楽しさを深め
文化のかおるまちにしまし

次号予告
ただいま
編集会議中。

＊バックナンバー無料配布中(※数に限りあり)

- ◆39号 この街で育てる
- ◆38号 今日は、やきにくだ!
- ◆36号 聞かせてください社長さん。
北九州市の好きなお店、明日のこと
- ◆35号 北九州家のいただきます。ごちそうさま。
- ◆32号 すし並1人前から眺める北九州。
- ◆30号 北九州やきとり豚バラ日記。

その他在庫情報は公式HPにてご確認ください。

◎住所、氏名、電話番号、ご希望の号を明記し、冊数の切
手を同封して下記まで、1名様1号につき1冊。(1冊/270円
分、2冊/320円分、3～4冊/510円分、5～6冊/750円分)
〒802-0001 北九州市小倉北区浅野3-8-14F
北九州市都市ブランド創造局MICE・エンターテインメント課
『雲のうえ』送付係 電話093-551-8152

雲のうえ公式サイト 検索





皿倉山



小倉城・小倉城庭園



門司港
レトロ



工場夜景クルーズ



夜景の美しい街 北九州市

北九州市観光情報サイト内の夜景特集ページへ▶

